HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	表紙の鍬始め神事に就いて
Author(s)	芒亭
Citation	各務時報, 75
Issue Date	1934-02-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77672
Type	article
File Information	A018_02_03all_Part20.pdf



Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

昭和九年二月三日發行

各務時報第七十五號目次

表紙寫眞……（鍬入の神事）……
表紙の「鍬始め神事の寫眞」に就て……芒亭
兵役義務と皇軍の特質に就て……見並中佐

研究
農用粉末石灰の良否鑑別法について……宮崎義勝
最少養分率に就て……内藤二郎

講座
箏曲と地唄に就て…(下)……狂人
「ソロバン」傳來の沿革と種々なる算法に就て……北岡康豐
美濃紙の元祖に就て……獨學

文苑
雷鳥の如く……當名胤久
一九三三年の思出……TON
暖國の雪……島々薫
思ふがまゝに……浮草
番犬……人世兎角朗
文藝の墮落性……栢野英夫
ノート・(三)……U生
雜詠……梅島生

部報
第三回管絃樂演奏會を終りて……洋樂部
山岳部報……平山智廣

學校日誌
編輯室



表紙の「鍬始め神事の寫眞」に就いて

農家では毎年正月二日に「鍬始め」と云ふ神事を行つて居る。此日大抵の場合戸主が自分の田畑の一部に出掛けて行つて形式的に三度土を掘るそして其後で其處に灰を撒いて、それから寫眞に示す樣な竹の棒を四五本其處に立てるのである。其は三尺ばかりの細い竹の一端を割つて橘、柿、餅、幣などがはさんであるものである。勿論此の神事は其年の五穀の豐穰を神に祈る爲である。

農家では農業に關係した右の樣な色々の神事を行つて居る。神と協力して居ると云ふ氣持があるのであらう。種子を蒔く前に蒔り蒔いてから又蒔り收穫してから感謝の爲に又蒔る。神の加護を祈願し神の怒りを畏れるのである。

科學は近代の共著しい進歩の爲神の王座を僭奪しやうとさえ見える。だが考へて見るがよい。世界中の科學者が集つても麥のたつた一粒を創造する事も出來ないぢやないか。

（芒亭）